

# 漢文「重要語の読み・意味」100題ドリル 解答編

無料ダウンロード(縦書き・印刷可)

Q1. 答え：けだし

解説：文頭の「蓋」は「けだし」と読み、「思うに・おそらく」と自分の推量・意見を述べる合図です。書き下しは「蓋(けだ)し君子は器ならず」。

Q2. 答え：思うに(おそらく)

解説：「けだし」は推量・私見を示し、「思うに・おそらく」の意。書き下し「蓋(けだ)し此(こ)の理(ことわり)有らん」、訳「思うに、こういう道理があるのだろうか」。

Q3. 答え：なんぞ〜ざる

解説：「盍」(「蓋」を同じ用法で使うこともある)は「なんぞ〜ざる」と読み、「どうして〜しないのか」とやんわり勧める言い方。書き下し「盍(なん)ぞ各(おのおの)爾(なんぢ)の志(こころざし)を言はざる」。

Q4. 答え：かつ

解説：並列・添加の「且」は「かつ」と読み、「その上・また」の意。書き下し「貧しく且(か)つ賤(いや)し」、訳「貧しく、その上身分も低い」。

Q5. 答え：その上・さらに(また)

解説：「かつ」はものごとを付け加える語で「その上・さらに」。書き下し「智あり且(か)つ勇あり」、訳「知恵があり、その上勇氣もある」。

Q6. 答え：それ

解説：文頭の「夫」は発語で「それ」と読み、「そもそも・いったい」と話を切り出す合図。書き下し「夫(そ)れ仁者は人を愛す」。

Q7. 答え：そもそも(いったい)

解説：発語の「それ」は「そもそも・さて」の意で、訳に必ず出さなくてもよい軽い語。書き下し「夫(そ)れ学は以(もつ)て已(や)むべからず」。

Q8. 答え：およそ

解説：「凡」は「およそ」と読み、「総じて・だいたい・すべて」とまとめる語。書き下し「凡（およ）そ学を為（な）すの道」。

Q9. 答え：総じて・だいたい（すべて）

解説：「およそ」は「総じて・だいたい」。数の前では「全部でおよそ」の意にもなる。書き下し「凡（およ）そ百余人」、訳「全部でおよそ百人あまり」。

Q10. 答え：いかん（これをいかんせん）

解説：「如・奈・若」が先に来る「如何・奈何・若何」は「いかん」と読み、方法・手段・理由をたずねる。「如之何」は「之（これ）を如何（いかん）せん」これをどうしたらよいか。

Q11. 答え：いかん

解説：「何」が先の「何如」は「いかん」と読み、状態・程度・よしあしをたずねる。書き下し「今日（こんにち）の事何如（いかん）」、訳「今日のこととはどんなようすか」。

Q12. 答え：どうであるか（状態・程度をたずねる）

解説：「何如」は状態・程度・評価をたずね「どうであるか・どんなものか」。書き下し「其（そ）の人何如（いかん）」、訳「その人はどんな人物か」。語順が逆の「如何」は方法・理由を問う点と区別。

Q13. 答え：いかん（くをいかんせん）

解説：「奈何」も「いかん」。間に語をはさむ「奈く何」は「くを奈何（いかん）せん」の形。書き下し「天下を奈何（いかん）せん」、訳「天下をどうしたらよいか」。

Q14. 答え：ゆゑん

解説：「所以」は「ゆゑん」と読み、「理由・わけ」、文脈により「くする方法・手段」。書き下し「此（こ）れ其（そ）の取るる所以（ゆゑん）なり」、訳「これ」が負けた理由である」。

Q15. 答え：理由・わけ（またはくする方法）

解説：「ゆゑん」は基本「理由・わけ」。「くする手段・方法」の意になることもある。書き下し「民の安んずる所以（ゆゑん）なり」、訳「民が安らかである理由（わけ）である」。

Q16. 答え：ここをもって

解説：「是以」はひとまとまりで「ここをもって」と読み、「だから・こういうわけで」と前を受けて結論につなぐ。書き下し「是（ここ）を以（もつ）て君子は之（これ）を慎（つつし）む」。

Q17. 答え：いへども

解説：「雖」は「くといへども」と読み、逆接「くだけれども・くとはいっても」。書き下し「良田有りと雖（いへど）も」、訳「よい田があるとはいっても」。上の語から返って読む。

Q18. 答え：くだけれども・くとはいっても（逆接）

解説：「雖」は逆接・譲歩を表す。例「過ちありと雖（いへど）も改むるに憚（はばか）ること勿（なか）れ」のように「くであつても」とも訳す。

Q19. 答え：と

解説：二つを並べる「A与B」の「与」は「と」と読む。書き下し「父と母と」。最も多い用法。

Q20. 答え：ともに

解説：「いっしょに」の意の「与」は「ともに」。書き下し「衆と与（とも）に樂しみを同じくす」または「与（とも）に樂しむ」。訳「みんなといっしょに樂しむ」。

Q21. 答え：味方する・賛成する（仲間になる）

解説：目的語をとって動詞で使う「与」は「くみす」と読み「味方する・賛成する」。書き下し「天之（これ）に与（くみ）せず」、訳「天はその者に味方しない」。

Q22. 答え：か

解説：文末の「与」は「歟」と同じで「か」と読み、疑問・反語を表す。書き下し「是（こ）れ誰（た）が過（あやま）ちか」、訳「これは誰の過ちか」。

Q23. 答え：あたふ（あたう）

解説：「あたえる」の意の「与」は「あたふ」。書き下し「之（これ）に千金を与（あた）ふ」、訳「その人に千金を与える」。

Q24. 答え：より

解説：起点を表す「自」は「より」と読み「くから」。書き下し「朋（とも）有り遠方（えんぼう）より来（きた）る」、訳「友が遠くからやって来る」。下から返って読む。

Q25. 答え：みづから

解説：「自分で・自分自身を」の意の「自」は「みづから」と読む。書き下し「自（みづか）ら知る者は明なり」、訳「自分を知る者は聡明だ」。同じ字でも『よ』と読み分ける。

Q26. 答え：より

解説：「従」も起点で「より」と読み「くから」。書き下し「此（こ）の道より行く」、訳「この道から行く」。なお「従ふ（したがふ）」と読む別用法もある。

Q27. 答え：すなはち

解説：「即」は「すなはち」と読み、「すぐに・とりもなおさず」の気持ち。書き下し「之（これ）を聞きて即（すなは）ち行く」、訳「それを聞いてすぐに行く」。

Q28. 答え：くならば（そのときは）

解説：「則」は「すなはち」と読み、前を受けて「くならば・そのときは」と条件・帰結をつなぐ。書き下し「学べば則（すなは）ち惑（まど）はず」、訳「学べば（そのときは）迷わない」。

Q29. 答え：あひ

解説：副詞の「相」は「あひ」と読み、「たがいに」、または動作が一方から相手に及ぶことを示す。書き下し「兄弟相（あひ）助く」、訳「兄弟がたがいに助け合う」。

Q30. 答え：たがいに（または、その相手に）

解説：「相（あひ）」は「たがいに」が基本だが、「相手に対して」と一方向を示すこともある。書き下し「久しく相（あひ）見ず」、訳「長い間会っていない」。

Q31. 答え：る・らる（くされる）

解説：動詞の前に置く「見」は受身を表し、送り仮名「る・らる」で読む。書き下し「年四十にして悪（にく）まる」、訳「四十歳になって（人から）憎まれる」。「見+動詞」＝「くされる」。

Q32. 答え：まみゆ

解説：目上の人に「お目にかかる」「対面する」意の「見」は「まみゆ」と読む。書き下し「孟子梁の恵王に見（まみ）ゆ」、訳「孟子が梁の恵王に拝謁する」。

Q33. 答え：なす

解説：動詞「する・行う・つくる」の「為」は「なす」。書き下し「善を為（な）すは最も樂し」、訳「善い行いをするのが最も樂しい」。

Q34. 答え：たり

解説：「AはBである」と断定する「為」は「たり」と読む。書き下し「子（し）は王者の師為（た）り」、訳「あなたは王者の師である」。

Q35. 答え：くのために

解説：前置詞の「為」は「ため（に）」と読み「くのために」。書き下し「君が為（ため）の計（はかりごと）」、訳「あなたのためのはかりごと（策）」。

Q36. 答え：る・らる（くされる）

解説：「為A所B」は「AのBする所と為（な）る」と読み、受身「AにBされる」を表す。書き下し「人の制する所と為（な）る」、訳「人に支配される」。

Q37. 答え：いづれ

解説：二つ以上をくらべて「どちらが」と問う「孰」は「いづれ」と読む。書き下し「父と母と孰（いづ）れか親しき」、訳「父と母とどちらが親しいか」。

Q38. 答え：どちらが（だれが）

解説：「孰」は「どちらが・だれが」と選択・比較を問う。書き下し「二者孰（いづ）れか愈（まき）れる」、訳「両者のうちどちらが優れているか」。

Q39. 答え：いづくんぞ

解説：反語・疑問の「安」は「いづくんぞ」と読み「どうして〜か（いや〜ない）」。書き下し「安（いづ）くんぞ魚の樂しみを知らんや」、訳「どうして魚の樂しみが分かるうか」。

Q40. 答え：いづくんぞ

解説：「悪」も反語で「いづくんぞ」と読む（「にくむ・わるい」とは別用法）。書き下し「悪（いづ）くんぞ然らざるを得（え）ん」、訳「どうしてそうならずにいられようか」。

Q41. 答え：いづくんぞ

解説：文頭の「焉」は反語で「いづくんぞ」と読む。書き下し「焉（いづ）くんぞ仁を得（え）ん」、訳「どうして仁といえようか（いえはしない）」。文末では置き字・「これ」となる別用法に注意。

Q42. 答え：むしろ

解説：選択して「いっそ・どちらかといえは」の意の「寧」は「むしろ」と読む。書き下し「寧（むし）ろ鶏口（けいこう）と為（な）るも」、訳「いっそ鶏のくちばし（小集団の長）になっても」。

Q43. 答え：いっそ（むしろ）のほうがよい

解説：「むしろ」は二つを比べて一方を選び取る語で「いっそ〜のほうがよい」。書き下し「寧（むし）ろ死すとも屈せず」、訳「いっそ死んでも屈服しない」。

Q44. 答え：なかれ

解説：禁止の「勿・莫・無・毋」は「なかれ」と読み「くするな」。書き下し「己（おの）れの欲（ほつ）せざる所、人に施（ほどこ）すこと勿（なか）れ」、訳「自分が望まないことを人にしてはならない」。

Q45. 答え：なかれ

解説：禁止の「莫」は「なかれ」と読み「くするな」。書き下し「道（い）ふこと莫（なか）れ君が行くこと早しと」、訳「言ってくれるな、君の出発が早いなど」。「莫」なし（存在しない）の用法もある。

Q46. 答え：あへて

解説：「敢」は「あへて」と読み、「無理に・しいて」。反語「敢へてくざらんや」で「どうしてくしないでいられようか」。書き下し「敢（あ）へて命に従はざらんや」、訳「どうして命令に従わないでいられようか」。

Q47. 答え：もとより

解説：副詞の「固」は「もとより」と読み「もともと・元来・言うまでもなく」。書き下し「臣（しん）固（もと）より王の忍びざるを知る」、訳「私はもともと王が忍びないお気持ちであることを知っている」。

Q48. 答え：ごとに

解説：「毎」は「ごとに」と読み「くたびに・くごとに」。書き下し「佳節（かせつ）に逢（あ）ふ毎（ごと）に」、訳「めでたい節句にめぐりあうたびに」。

Q49. 答え：ことごとく

解説：「悉」は「ことごとく」と読み「すべて・残らず」。書き下し「力を悉（ことごと）くして以（もつ）て赴（おもむ）く」、訳「力のすべてを尽くして向かう」。同義に「咸・尽・皆」。

Q50. 答え：みな

解説：「皆」は「みな」と読み「すべて・全員」。書き下し「兄弟皆（みな）在り」、訳「兄弟はみな（無事で）いる」。

Q51. 答え：かつて

解説：経験を表す「嘗」は「かつて」と読み「以前に・以前くしたことがある」。書き下し「吾（われ）嘗（かつ）て終日食らはず」、訳「私は以前、一日中食べなかったことがある」。

Q52. 答え：いまだかつてくず

解説：「未嘗」は「いまだかつてくず」と読み「今までに一度もくずない」。再読文字「未」＋「嘗」。書き下し「未（いま）だ嘗（かつ）て有らざるなり」、訳「今まで一度もなかった」。

Q53. 答え：まさに

解説：副詞の「方」は「まさに」と読み「ちょうど・今まさに」。書き下し「方（まさ）に今の時」、訳「ちょうど今の時代」。再読文字「方（まさ）にくんとす」とは形で区別。

Q54. 答え：すなはち

解説：「乃」は「すなはち」と読み「そこで・なんと・やっと」と、意外性や時間の流れを表す。書き下し「乃（すなは）ち前非を悟る」、訳「そこで（やっと）以前のあやまちを悟る」。

Q55. 答え：つひに

解説：「遂」は「つひに」と読み「とうとう・そのまま」。書き下し「遂（つひ）に大業を成す」、訳「とうとう大事業を成しとげた」。

Q56. 答え：こひねがはくは

解説：願望の「庶幾」は「こひねがはくは」と読み「どうかくしてほしい・なんとかくしたい」。書き下し「庶幾（こひねが）はくは之（これ）を改めん」、訳「どうかこれを改めたい」。

Q57. 答え：る・らる（くされる）

解説：受身を表す「被」は送り仮名「る・らる」で読む。書き下し「忠にして謗（そし）られ」、訳「誠実であるのにそしられる」。「被＋動詞」で「くされる」。

Q58. 答え：置き字（くより／＼においての関係を示す）

解説：「於・于・乎」は多く置き字で読まないが、「くより・くにおいて・くに」という関係を補う。書き下し「青は之（これ）を藍（あゐ）より取る」、訳「青色は藍から取る」。比較では「より」の意。

Q59. 答え：これ

解説：目的語に立つ代名詞の「之」は「これ」と読む。書き下し「学びて時に之（これ）を習ふ」、訳「学んでは適切なときにそれを復習する」。連体修飾の「の」、動詞「ゆく」の用法もある。

Q60. 答え：ゆく

解説：動詞の「之」は「ゆく」と読み「行く」。書き下し「牛何（いづ）くにか之（ゆ）く」、訳「牛はどこへ行くのか」。代名詞「これ」・助詞「の」と区別。

Q61. 答え：それ

解説：文頭の「其」は語調を整え、推量・反語・願望を強める。書き下し「其（そ）れ真（しん）に馬無きか」、訳「いったい本当に名馬はいないのか」。多くは「それ」と読む。

Q62. 答え：置き字（順接「そして」・逆接「しかし」をつなぐ）

解説：「而」は接続の置き字で、ふつう読まずに送り仮名（くて・くども）に現れる。書き下し「学びて思はざれば則（すなは）ち罔（くら）し」、訳「学んでも考えなければ（道理に）くらい」。

Q63. 答え：なんぢ

解説：二人称の「而」は「なんぢ」と読み「おまえ・あなた」。書き下し「余（よ）而（なんぢ）の罪無きを知るなり」、訳「私はおまえに罪がないことを知っている」。接続の「而」と区別。

Q64. 答え：なんぢ

解説：二人称「汝」は「なんぢ」と読み「おまえ・あなた」。書き下し「汝（なんぢ）之（これ）を知るか」、訳「おまえはこれを知っているか」。同義に「爾・

若・而。

Q65. 答え…われ(わが)

解説…一人称「吾」は「われ」、連体では「わが」。書き下し「吾(われ)日(ひ)に三たび吾(わ)が身を省(かへり)みる」、訳「私は毎日何度も我が身を反省する」。

Q66. 答え…これをくか(之乎の合音)

解説…文末の「諸」は「之乎(これをくか)」をまとめた合音で「これをくか」と読む。書き下し「諸(これ)有りや」、訳「そういうことがあるか」。文中では「これをく」となる用法もある。

Q67. 答え…なり

解説…文末で断定の「也」は「なり」と読み「くである」。書き下し「是(こ)れ仁なり」、訳「これが仁である」。疑問・反語の文末では「や・か」と読む。

Q68. 答え…「もの」と読む(くはと主題を示す)

解説…「者」は「もの」と読んで「くという人・くするもの」を表し、主題「くは」を示す。書き下し「仁者(じんしゃ)は人を愛す」、訳「仁の人は人を愛する」。条件句末では「くは」と読む。

Q69. 答え…置き字(文末で断定・完了の語気を添える。読まない)

解説…文末の「矣」は置き字で読まず、断定・完了の語気を添えるだけ。書き下し「過(あやま)てり」、訳「あやまちである・しくじった」。書き下しに「矣」の字は書かない。

Q70. 答え…置き字(断定・強調の語気を添える。読まない)

解説…文末の「焉」は置き字で読まず、語気を添える。書き下し「衆之(これ)を好むも必ず察す」、訳「多くの人が好んでも必ずよく調べる」。文頭の反語「いづくんぞ」とは別。

Q71. 答え：ごとし

解説：比況の「如」は「ごとし」と読み「〜のようだ」。書き下し「大賓（たいひん）を見るが如（ごと）し」、訳「大切な客に会うかのようだ」。同義に「若（ごとし）」。

Q72. 答え：もし

解説：仮定の「若」は「もし」と読み「もし〜ならば」。書き下し「若（も）し過ち有らば則（すなは）ち之（これ）を改む」、訳「もし過ちがあれば改める」。「ごとし」「なんぢ」と読む用法もある。

Q73. 答え：たとひ

解説：譲歩の「縦」は「たとひ」と読み「たとえ〜でも」。書き下し「縦（たと）ひ我を殺さずとも」、訳「たとえ私を殺さないとしても」。後に逆接が続くと予想して読む。

Q74. 答え：なかりせば

解説：仮定の「微」は「なかりせば」と読み「もし〜がなかったら」。書き下し「微（な）かりせば管仲（くわんちゆう）、吾（われ）其（そ）れ髪を被（かうむ）り左衽（さじん）せん」、訳「もし管仲がいなかったら、私は（異民族のように）ざんばら髪で左前の服を着ていただろう」。

Q75. 答え：なし

解説：存在の否定「無」は「なし」と読み「〜がない」。書き下し「心に二用無し」、訳「心は二つのことを同時には用いられない」。禁止で「なかれ」と読む用法もある（無〓勿）。

Q76. 答え：あらず

解説：「AはBにあらず」と否定する「非」は「あらず」と読む。書き下し「我（われ）生まれながらにして之（これ）を知る者に非（あ）らず」、訳「私は生まれつき道理を知る者ではない」。

Q77. 答え…いまだくず

解説…再読文字「未」は「いまだくず」と読み「まだくない」。一度目「いまだ」、二度目「ず」。書き下し「未(いま)だ生を知らず、焉(いづ)くんぞ死を知らん」、訳「まだ生も分からない、どうして死が分かるうか」。

Q78. 答え…まさにくんとす

解説…再読文字「将」は「まさにくんとす」と読み「ちようどくしようとする・今にもくしそうだ」。書き下し「天将(まさ)に大任を降(くだ)さんとす」、訳「天が今にも大きな使命を授けようとしている」。

Q79. 答え…まさにくべし

解説…再読文字「当」は「まさにくべし」と読み「当然くすべきだ・きつとくのはずだ」。書き下し「当(まさ)に大志を立つべし」、訳「当然大きな志を立てるべきだ」。

Q80. 答え…すべからくべし

解説…再読文字「須」は「すべからくべし」と読み「せひともくする必要がある」。書き下し「須(すべか)らく寸陰(すんいん)を惜(を)しむべし」、訳「わずかな時間もせひ大切にすべきだ」。

Q81. 答え…よろしくべし

解説…再読文字「宜」は「よろしくべし」と読み「くするのがよい・くするのが適当だ」。書き下し「宜(よろ)しく早く之(これ)を凶(はか)るべし」、訳「早めにこれに手を打つのがよい」。

Q82. 答え…なほくとし

解説…再読文字「猶」は「なほく(の／が)ごとし」と読み「ちようどくと同じだ」。書き下し「過ぎたるは猶(な)ほ及ばざるがごとし」、訳「やりすぎは、ちようど足りないのと同じだ」。

Q83. 答え..なんぞ

解説..理由を問う「何」は「なんぞ」と読み「どうして〜か」。書き下し「何(なん)ぞ去らざるや」、訳「どうして立ち去らないのか」。場所なら「いづくにか」、物なら「なにを」と読み分ける。

Q84. 答え..あに

解説..反語・詠嘆の「豈」は「あに」と読み、「豈に〜や」どうして〜か(いや〜ない)、「豈に〜ずや」なんと〜ではないか」。書き下し「豈(あ)に痛ましからずや」、訳「なんと痛ましいことではないか」。

Q85. 答え..そもそも(それとも)

解説..選択・転換の「抑」は「そもそも」「あるいは(それとも)」と読む。書き下し「之(これ)を求めしか、抑(そもそ)も之を与(あた)へしか」、訳「(孔子が)求めたのか、それとも(人が)与えたのか」。

Q86. 答え..なかれ

解説..禁止の「毋」は「なかれ」と読み「〜するな」。書き下し「過(あやま)てば則(すなは)ち改むるに憚(はばか)ること毋(なか)れ」、訳「過ちがあれば改めることをためらうな」。

Q87. 答え..たまたま

解説..副詞の「適」は「たまたま」と読み「ちようど・偶然」。書き下し「適(たまたま)其(そ)の怒りに会(あ)ふ」、訳「ちようどその怒りに出くわす」。

Q88. 答え..ただ

解説..限定の「唯」は「ただ」と読み「ただ〜だけ」。書き下し「唯(た)だ利を是(こ)れ視(み)る」、訳「ただ利益だけを見る」。同義に「但・惟・徒」。

Q89. 答え..ひとり

解説..副詞の「独」は「ひとり」と読み「ただ〜だけ」、反語を強めて「いったい・あなただけは」とも。書き下し「子(し)独(ひと)り聞かずや」、訳「あなただけは聞いていないのか(いや、聞いているはずだ)」。

Q90. 答え：そのA(する)よりは(むしろB)。呼応する語は「寧(むしろ)」

解説：「与其A寧B」は「其(そ)のAせんよりは寧(むしろ)ろBせよ／Bせん」と読み、「AよりはむしろBのほうがよい」と選択を表す。書き下し「其の奢(おご)らんよりは寧(むしろ)る儉(けん)なれ」、訳「ぜいたくするよりはむしろ質素であれ」。

Q91. 答え：また／ずや(なんと／ずではないか)

解説：「不亦A乎」は「亦(また)Aずや」と読み、「なんとAではないか」と詠嘆を表す。書き下し「学びて時に之(これ)を習ふ、亦(また)説(よろこ)ばしからずや」、訳「学んで適切なときに復習する、なんと喜ばしいことではないか」。

Q92. 答え：「ところ」と読み、下の動詞を名詞化する(～するもの・こと)

解説：「所十動詞」は「ところ」と読み、その動詞を名詞化して「～するもの・こと・場所」を表す。書き下し「己(おの)れの欲(ほつ)せざる所」、訳「自分が望まないこと」。「為(な)る所」では受身を作る。

Q93. 答え：しかし(～に及ばない／～したほうがよい)

解説：「不如A・不若A」は「Aにしかし」と読み、「Aに及ばない∥Aのほうがよい」と比較・選択を表す。書き下し「百聞は一見に如(し)かず」、訳「百回聞くのは一度見るのに及ばない」。

Q94. 答え：しむ(～をして…しむ)

解説：使役の「使・令・遣・教」は「～をして」…しむ」と読み「～に…させる」。書き下し「天帝我をして百獸に長たらしむ」、訳「天帝は私を百獸の長にならせた」。

Q95. 答え：ざるはなし(～しないものはない∥みなくする)

解説：「莫不A」は「Aせざるはなし」と読み、二重否定で「Aしないものはない∥すべてAする」。書き下し「死有らざるは莫(な)し」、訳「死なないものはない(すべて死ぬ)」。

Q96. 答え：なにをもって（どうやって・どうして）

解説：「何以」は「なにをもって」と読み、手段「どうやって」や理由「どうして」を問う。書き下し「何（なに）を以（もつ）て之（これ）を知る」、訳「どうやってそれを知るか」。

Q97. 答え：しかり

解説：「そくだ・そのとおりだ」の意の「然」は「しかり」と読む。書き下し「対（こた）へて曰（い）はく、然（しか）り」、訳「お答えして言うには、そのとおりです」。「しかるに（逆接）」「しかうして」の用法もある。

Q98. 答え：しからばすなはち（それならば）

解説：「然則」は「しからばすなはち」と読み「それならば・そうであるなら」と前を受けて続ける。書き下し「然（しか）らば則（すなは）ち何如（いかん）」、訳「それならどうであるか」。


Q99. 答え：のみ

解説：文末の限定「已」は「のみ」と読み「〜だけだ・〜にすぎない」。書き下し「斯（か）くのときのみ」、訳「このようであるだけだ」。「已（や）む〓やめる」「已（すで）に」の用法もある。

Q100. 答え：なし

解説：存在の否定の「莫」は「なし」と読む（比較で「これより〜なものはない〓最上」）。書き下し「天下焉（これ）より強きは莫（な）し」、訳「天下にこれより強いものはない」。禁止「なかれ」と区別。

---

 かわしい解説はこちら

漢文の重要語の読みと意味をやさしく解説

誰でも古典塾 [kotemosensei.com](http://kotemosensei.com)